



テーマ展 「つくり、つたえる 花巻の工芸」

今年度2回目のテーマ展「つくり、つたえる 花巻の工芸」が、7月4日（土）から開催されています。花巻の風土の中で育まれてきた、台焼や鍛冶町焼、花巻傘、成島和紙、ホームスパン、南部系こけしについて、職人の手によってつくられてきた工芸品などを紹介しています。伝えられてきた「わざ」を、ぜひご覧ください。

台焼



蓋付菓子器

鍛冶町焼



鍛冶町焼

花巻傘



花巻傘作りの道具



糠青磁釉玉露煎茶器



花巻人形の「型」



花巻傘

成島和紙



製作工程と道具

ホームスパン



色染和紙

南部系こけし



煤孫家・佐藤家のこけし



和紙作りの道具



足踏み紡毛機



足踏みロクロ

関連イベント (ワークショップ)

壁かけ傘づくり 7月19日（日） 13:30～
花巻人形絵付け 7月26日（日） 13:30～

※受付は前日までです。

裏面に続く

当館館長による講話(出前授業)

「神楽という芸能の歴史」

湯口中学校では、神楽を継承していて、地区民運動会で発表するとともに、隔年で神楽についての当館館長による講話を実施しています。今年度は6月24日に、全校生徒に対して「神楽の歴史的背景」や「円万寺神楽の歴史と位置づけ」についての館長講話を出前授業として行いました。

講話では、神楽の鈴の音・光るものや武器・扇や面などは悪魔が嫌いなモノなので「魔を祓い健康を約束する」意味があるということや、円万寺神楽のルーツは花巻開

町の祖とされる北松斎と関係があることなどを、スライドで解説しました。



代表生徒の感想

- やっぱ、適当に踊るんじゃなくて、見ている人たちを健康にさせるようにしていきたい。
- 見ている人を健康にさせるとかそういうことを改めて確認できた。1年生に教える時に、そこをもっと丁寧に踊れるようにしていきたい。

- 神楽には多種多様な種類があり、地域によって多くの特色が生まれることがわかった。特に最後にあった映像の中にある4人組のくぐりっこは独特な動きがとても印象的だった。これから私たちは神楽を練習していくが、この中でただ適当に踊るのではなく、意味を持って踊ることが大切だと全員で認識した上で踊っていききたいと思う。

縄文土器片の貸出利用について

6月に、複数の中学校から縄文土器片の貸出申請があり、利用していただくことができました。土器片の観察は、写真で見ただけ・話を聞いただけの学習と違って、生徒一人一人が実際に手に取って確認できるので、実感を伴った学習になるようです。

バーチャルに慣れた生徒に「リアル」を届けるのは、これからの教育にとってとても大切なことかもしれないかもしれません。利用について、検討をお願いします。

生徒の感想(一部)

- 教科書で見るとより迫力があって、縄目の模様などもはっきりと見ることができ、とても勉強になった。
- 触ってみると、裏表で手触りが違っていたし、縄目や木片などの模様を見つけることができた。
- 写真や説明文より、さらにリアルな質感などを感じられて、とても貴重な経験となった。
- 厚さや形もそれぞれ異なっていて、口縁部はつるつるしていて、胴部は丸みのある破片、底部は平らな面だということが分かった。



縄文土器片セット

これが1セット(20個入り・15個入り)で
10セット保有→複数セットの貸出可能!